

鷹栖町の成り立ち



展示しているのは、「国見の碑」の実物大ジオラマです。明治18年、近文山から上川原野を見渡した岩村通俊が、その地の開発を決意したことが「国見」の由来とされています。翌年、北海道庁初代長官に就任した岩村は、上川原野の開発を本格的に進めていきました。

開発は石狩川に沿って進められ、永山、旭川、神居に村が設置されたのに続き、明治25年には鷹栖村が置けました。当時の村域は、現在の愛別町、比布町、上川町の一部に加え、江丹別、東鷹栖、春光台を含む石狩川右岸一帯に広がっていました。

明治24年、埼玉県を皮切りに、岩手、山梨、石川、徳島、広島、香川など、全国各地からの移住団体が鷹栖村に入植しました。同時期には、大倉喜八郎や藤野四郎兵衛といった実業家や、松平直亮伯爵らが農場経営を開始し、多くの小作人も鷹栖に移り住むようになりました。移住者の増加に伴い分村が進み、大正13年の三村分割によって、現在の鷹栖町の範囲となりました。



鷹栖町郷土資料館

開館時間

4月～9月 10:00～17:00
10月～3月 10:00～16:00

開館日 水曜日・土曜日

入館料 無料

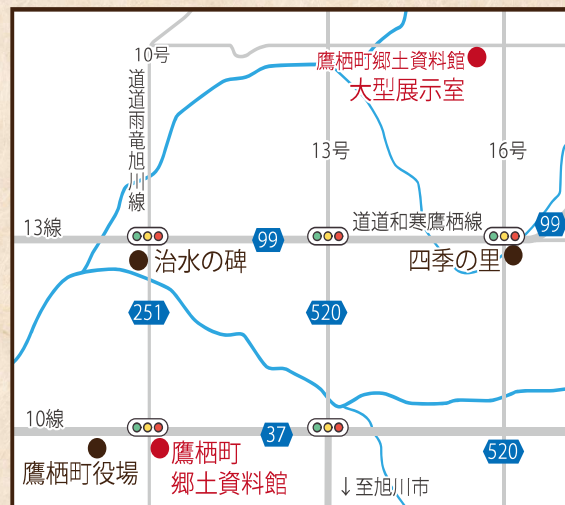


鷹栖町郷土資料館
大型展示室

開館時間

5月～9月のみ開館。
※教育委員会へ要事前予約

入館料 無料



鷹栖町郷土資料館

〒071-1201 北海道上川郡鷹栖町南1条1丁目1-19

大型展示室

〒071-1256 北海道上川郡鷹栖町16線15号【旧第二中学校体育館】

※鷹栖町郷土資料館から約6km

TEL: 0166-87-2028

鷹栖町教育委員会

TEL: 0166-87-2028

鷹栖町HP

<https://www.town.takasu.hokkaido.jp/>



鷹栖町 郷土資料館

Takasu Town Local History Museum

